

..... 編集後記 .....

◆ 東北で被害地震が続発しました。そうすると中央から発信されるニュースの最後には、必ずと言ってよいくらい、それにしてももし東京が地震に襲われたら、という締め言葉が使われます。地方の人間にとってこれくらい腹の立つ話はありません。今困っているのはここなんだよと叫びたいでしょう。

◆ 地震の研究者は、地震の予言者の言動にも腹が立つことでしょう。編者はかつて、関西の某宗教団体の教祖が、予言した地震が発生しなかったことを詫げるために割腹自殺を図ったという新聞記事を見ました。驚きました。こんな予言者もいるのかと、自殺を奨励しているのではありません。その後、自分の言動に責任を持った地震予言者は出現していません。

◆ 某新聞社系週刊誌の地震予知騒動にも御立腹の研究者は多いかも知れません。何せ予知の論理が明らかでなく、検証も全くできないからです。しかしながら編者は、従来の弾性波の観測・研究だけからの確かな地震予知をするのは、やはり難しいのではないかとも思います。それ以外の方法で進展が望めるのであれば、積極的に取り組むのも一つの方法でしょう。

◆ かつて、所関係者の飲み会の席上で、中国から来た地震研究者に対して、中国では地震予知ができたそうだが、どうしてそれは論文になっていないののだと、日本の地球物理屋がからみました。すると、そんなも

の書いても誰も信用しないから誰も書かないのだ。多くの人命が助かるかどうかが問題なのだ、との答えが返ってきました。

◆ 子供や一般の参加者に化石を採集してもらい、その名前をさがしたり、地質の背景を考えてもらう試みは、すぐれて生産的です。書も持って野原に出よう、ですか。

◆ しかしながら子供を取り巻く教育の状況は、先生達にとっても楽観視できないようです。つめこみ、ゆとり、学力低下、全体の流れの中で、理科や地学の教育内容もほんろうされています。

◆ 色や形が面白いからといって石に興味を持つ人は多いと思われます。一方、地質学者は、しばしば色や形に惑わされないようにして、成因状の重要な鍵を探すこともあります。

◆ 日本では、かつての公害、と言われることが多くなりました。もちろん種類を変えて継続してはいるのですが、国によって、その進み具合は様々であり、日本が国際貢献できる部分があることは確実です。

◆ 岩手山で噴火騒ぎがあったときの、麓でのアンケート調査によれば、岩手山を火山だと思っていた住民が少なからずいたそうです。イシッコ賢さんの後輩たちよ、岩手山は火山だけ。明らかに教育の問題です。 (須藤 茂)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤 茂  
副委員長：谷田部信郎  
委員：高木哲一・関口春子・中島 隆・  
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館  
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1  
Tel. 029-861-3754  
Fax. 029-861-3569

地質ニュース	第589号	2003年	9月号
	定価¥785(本体価格¥748) 円実費		
2003年9月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	E-mail:jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©2003 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ